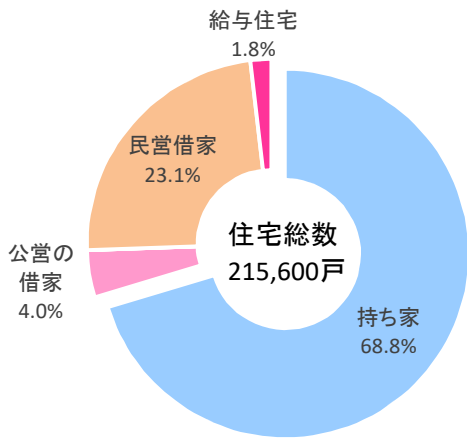


平成30年住宅・土地統計調査でみる鳥取県

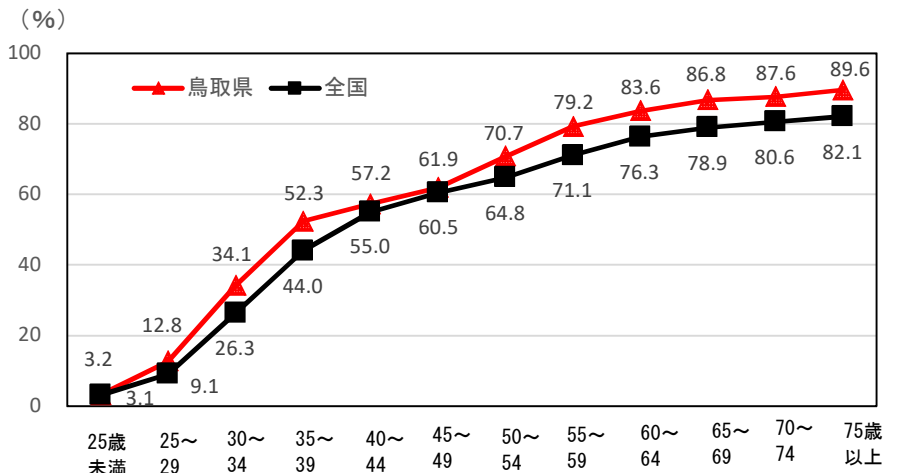
～住宅の状況・世帯の居住状況に関する結果から～

住宅・土地統計調査は、我が国の住宅とそこに居住する世帯の居住状況、世帯の保有する土地等の実態を把握し、その現状と推移を明らかにする調査で、5年ごとに行われています。

所有の関係別割合（平成30年）



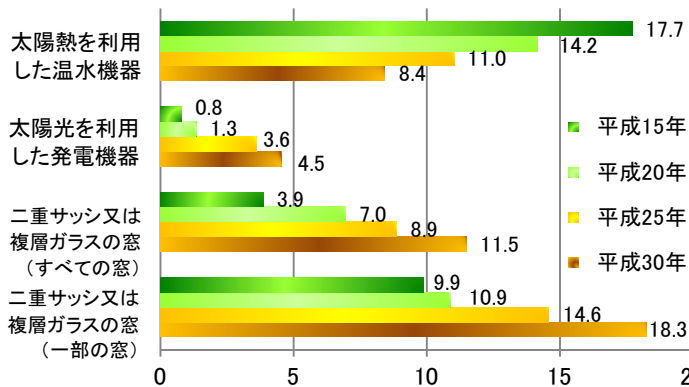
家計を主に支える者の年齢階級別持ち家世帯率（平成30年）



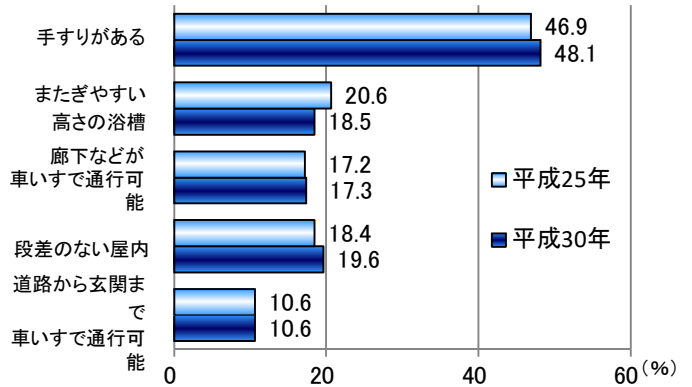
居住世帯のある住宅215,600戸を所有の関係別にみると、持ち家が148,400戸で、持ち家率（住宅全体に占める持ち家の割合）は68.8%となっており、平成25年と比べると、住宅数は2,500戸増加したものの、割合は1.0ポイント低下しています。

また、家計を主に支える者の年齢階級別に持ち家率をみると、年齢階級が高くなるにつれ持ち家世帯率も高くなっており、40歳以上で5割、55歳以上で8割弱となっています。

省エネルギー設備がある住宅の推移（平成15～30年）



高齢者等のための設備がある住宅の割合（平成25～30年）



省エネルギー設備等のある住宅をみると、平成25年と比べて「太陽熱を利用した温水機器」がある住宅は2.6ポイント低下、「太陽光を利用した発電機器」がある住宅は0.9ポイント上昇、「二重サッシ又は複層ガラスの窓」がすべての窓にある住宅は2.6ポイント上昇、「二重サッシ又は複層ガラスの窓」が一部の窓にある住宅は3.7ポイント上昇しています。

また、高齢者等のための設備についてみると、設備がある住宅のうち「手すり」がある住宅は103,800戸で、住宅全体の48.1%となっており、次いで「段差のない屋内」がある住宅は42,300戸で、住宅全体の19.6%となっている。

1人当たり居住室の畳数の推移（平成5～30年）

住宅に居住する世帯1人当たり居住室の畳数は、平成5年の11.6畳から一貫して増加し、平成30年では15.1畳となっています。

この結果、平成5年から平成30年までの25年間に1人当たり居住室の畳数は1.3倍に増加したことになり、世帯の居住密度は低下していることがうかがえます。

